



岩手山上空より撮影/撮影:杉江尚先生

目 次 CONTENTS

巻頭言	岩手西北医師会	会長	高	橋	邦	尚1
総会議事	録			•••••		2
岩手西北	と と と 医 師 会 役 員 紹介 ・			•••••		5
議事録・				•••••	•••••	6
各種行事	報告			•••••	•••••	16
仲間便り)					17
岩手郡医	E史郡市医師会編·			•••••	•••••	19
会員の入	、会・退会・異動等					30



巻 頭 言

『巻頭言』にかえて トップダウンとボトムアップ

一般社団法人岩手西北医師会 会長 髙 橋 邦 尚

一言ご挨拶申し上げます。

岩手郡医師会長の重責を仰せつかって大分立ちました。その間、新法人移行を経て会員皆様、総務・理事の諸先生、医師会スタッフの大きなご協力を頂きながら、なんとかやって参りました。

さて、最近会社や組織の運営システム用語として、トップダウン・ボトムアップという言葉をよく耳にします。トップダウンは、リーダーが決めるべきことは断固として決める。それに対してボトムアップというのは、組織全体の声をよく聴いて要点を慎重に拾い上げて運営に生かす。という様な意味と私は理解しています。

これらを我が岩手西北医師会に置き換えますと、トップダウン、即ち私及び総務会レベルで決められることは出来るだけその時点で判断し、理事会・総会へ測ることに努めました。

一方で、今まで理事のみが活動主体となっていた各部会は、委員会制とし理事以外の会員の参加を得られる体制としたいと考えています。特に学校保健部会の立て直しは急務と思われ、関係諸先生の御意見を伺っている最中です。また、休祭日当番医の補助金の会員への一部還元は本年度より始まりました。

その結果、会議の為の会議はほとんどなくなり、会議開催の最も多かった頃に比べて1/3 程となり、経費の節減にも役立っています。

一方でボトムアップについては、地域の声を聞くべく昨年は岩手町・葛巻町・雫石町でい わゆる出前医師会を行い、多くの先生方の参加を得ました。同時に、各地域の行政との話合 いの場も設け、休祭日補助金の値上げも快く了解頂きました。今年は、八幡平市・滝沢市で 行う予定です。

以上今後もトップダウン・ボトムアップの良きバランスを考慮しながら、地元密着の医師 会運営を小掛けたいと考えています。

最後に、私はこの会がどの方面から見て頂いても、あらゆる層でわかりやすいものにしたいと考えています。ある先生に「会の運営に大切なのは"筋を通すこと"」が大切だと指摘されました。まさにその通りだと考えます。私ども医師会から県医師会・日本医師会に向けて発言をすることについても、「筋を通すこと」が我々の活動を理解して頂く最も近い方法だと確信しております。

現在、岩手西北医師会は認知症ネットワーク・在宅事業が少しずつではありますが、動き始めています。医師会名も新しくなりこの会は大きく生まれ変わろうとしております。この新しいうねりの中に、一人でも多くの会員諸先生かの積極的な御参加、御協力を望むものです。

総 会 議 事 録 —

平成26年度 一般社団法人岩手郡医師会定時総会

招集通知日:平成26年4月24日休

時:平成26年5月17日出

 $16:00\sim17:20$

場 所:盛岡グランドホテル

1階 飛天の間

総会員数:87名(平成26年5月1日現在) 閉会挨拶:理事 髙橋 真

出席会員数:23名

委任出席数:42名

司 会:理事 髙橋 真 開 会:理事 髙橋 真 長: 篠村達雅 議

議事録署名人:篠村達雅、植田 修

会 長 挨 拶

髙橋邦尚会長は、学術、広報、学校保健 など行っていたものを委員会制にして理事 以外の先生にも入っていただき協力しても らうつもりです。トップダウン、ボトムアッ プのバランスとり医師会の運営をして行く 旨の挨拶をした。

議 事

第1号議案 平成25年度岩手郡医師会会計 決算案について

髙橋真理事は、平成25年度事業報告及び 平成25年度の決算案について説明した。

つづいて、西島康之監事は、会計帳簿は 決算書と合致していること、業務執行につ いて正しく定款に従ってなされており妥当



であると認めると報告した。

第2号議案 平成26年度事業計画案につい て、第3号議案平成26年度決算案につい

髙橋真理事は、平成26年度事業計画と平 成26年度決算案について説明をし、議長か ら審議質を諮ったところ嶋会員からゴルフ 大会の県大会、郡委員会について質問があ り、会長と髙橋真理事が説明し嶋会員は了 解した。

議長は、会場へ第1号議案、第2号議案、 第3号議案について一括で、決議を問うこ とを諮ったところ、異議がないことから、 決議を諮り、賛成多数で承認された。

第4号議案 定款変更議案について

(1) 医師会名称変更について





髙橋会長は、約1年半前から、新名称の アンケートをとりその後何度か理事会など で協議した結果、新名称として「一般社団 法人岩手西北医師会」が候補となった旨の 報告をした。議長は議案について議場に 諮ったところ満場一致をもって承認し可決 された。

(2) 主たる事務所について

髙橋会長は、定款第2条 主たる事務所 滝沢市制に伴い事務所の所在地を滝沢村と 記載しているところを滝沢市に変更したい と述べ、議長は、これを挙手にて諮ったと ころ満場一致をもって承認し可決された。

(3) 理事の定数について

髙橋会長は、定款第22条(1)の理事の定数 に上限を13名から15名とし医師会の活動を より活発にしたい旨の提案があり、議長 は会場に諮ったところ、満場一致で承認さ れた。

第5号議案 岩手郡医師会理事選任につい て

議長は、選挙管理委員長の篠村達雅として、理事立候補者名簿について、定款の規定の13名の立候補である旨を報告して役員の選任方法を一括審議することの可否を議場に問うたところ、異議が無いことから、一括で、決議を求め、全員異議無く承認さ

れた。

髙橋会長は、今回の13名の名前を添付資料の立候補一覧を元に読み上げた。

植田修、北上明、久保谷康夫、紺野敏昭、佐々木久夫、篠村達雅、高橋明、 髙橋邦尚、髙橋真、立本仁、栃内秀彦、 森茂雄、山口淑子 以上13名

なお、被選任者その就任を承諾した。

髙橋会長は、顧問に髙橋牧之介会員、参与に及川忠人会員を推薦して会場に諮ったところ。満場一致で承認された。

第6号議案 岩手県医師会理事推薦、代議 員、予備代議員について

議長は、岩手郡医師会の岩手県医師会の理事の推薦を、山口淑子理事とすることを諮り満場一致で承諾された。その後岩手県医師会の代議員、予備代議員について、植田修、髙橋真、予備代議員に森茂雄、北上明会員が満場一致で承諾された。

その他

髙橋会長は、事務所を会長個人所有の建物に移転したいこと、家賃や光熱費などの経費が発生し岩手郡医師会の経費とすることを承認いただきたいとこと、医師会のロゴについて一任いただきたい旨を述べ議長

が会場に諮ったところ承認された。

髙橋会長は、平成25年度在宅当番医制委託事業費の負担金の配付について平成26年度在宅当番医制委託事業について配布の準備を進めており6月に配布予定であること、対象機関は44か所、回数は述べ355回となることと26年度の契約は25年と同額で5.238,000円あることを報告した。

高橋会長は、高田診療所支援について支援していただいている小児科、耳鼻科、皮膚科、眼科の先生へ感謝を述べた。

髙橋会長は、岩手県医師会野球大会(平成26年8月24日)不出場予定と、参加希望の会員は参加医師会との合同チームの形を考えていることを報告した。

久保谷副会長は、岩手県医師会親睦ゴルフ大会(平成26年9月21日)について説明して実行委員長に、北上明理事が、瀧山郁雄会員が競技委員長委員に決定したこと、ゴルフ大会の日程を9月21日に雫石ゴルフ場で開催とし、県医師会、各郡市医師会へ連絡をし、表彰式、懇親会のアトラクションで上原会員のバンド演奏を依頼していることを報告した。実行委員長の北上先生より開催に向け実行委員の他にも会員の多数

の協力が必要であるのでお願いしたいと話 があった。

議長は定款細則の未承認部分について会 長に意見を求めた。

髙橋会長より前回の総会で定款細則の選挙部分は承認されたがそれ以外が未承認でしたが選挙の部分も含め全体を承認いただきないと話しがあった。

議長は質問、意見がないか会場に聞いた ところ上原先生より変更点を述べるように と意見があり、事務局より選挙のところを 前回指摘のあった部分の理事を選挙管理委 員と変更し、それ以外は前案通りと説明が あり上原先生は納得した。

議長が定款細則の承認を会場に挙手を 諮ったところ満場一致で承認された。

議長は今までの件に質問、意見がないか確認したが特にないということで議事が終了した。17時20分髙橋真理事が閉会を告げた。







岩手西北医師会 役員紹介

会 長		副会長		総務局
髙橋 邦尚	栃内 秀彦	紺野 敏昭	久保谷 康夫	篠村 達雅

<委員会>

各種委員会		サポート				
	紺野 敏昭 (記	忍知症)		金森 一郎		
	植田 修 (目	自殺予防)	金森 一郎			
冶	大川原 真澄(料	大川原 真澄 (糖尿病)				
学術事業委員会	髙橋 真 (生	上涯教育)		植田 修		
	髙橋 邦尚 (7	在宅)		篠村 達雅		
	久保谷 康夫(1	ココモティブ症候郡	羊)	立本 仁		
	山口 淑子	上原 充郎	藤井 裕	藤原 貴光		
学校保健委員会	西島 康之	佐々木 久夫	鈴木 一彦			
	金井 猛	小豆嶋 純子		佐藤 正義		
	 滝沢市	栃内 秀彦		髙橋 真		
	(电/八川	紺野 敏昭		植田 修		
地域医療委員会	雫石町	篠村 達雅	大森 浩明	篠村 五雅		
	八幡平市	森 茂雄	瀧山 郁雄	及川 忠人		
	葛巻町	西島 康之		佐々木 崇		
	岩手町	佐々木 久夫	北上 明			

<部 会>

各種部会		担当者		サポート
産業保険部会	森 茂雄	及川 忠人		
医療保険部会	久保谷 康夫	佐々木 久夫	髙橋 邦尚	
勤務部会	高橋 明	秋山 法宏	瀧山 郁雄	
救急医療部会	高橋 明	星川 浩一	髙橋 邦尚	
広報部会	北上 明	髙橋 邦尚	藤原 貴光	
医師連盟	髙橋 邦尚	栃内 秀彦		
岩手県医師会	山口 淑子	久保谷 康夫		

_____ 議事 録 ____

第48回 岩手県医師会親睦ゴルフ大会 第1回岩手郡医師会実行委員会

日 時: 平成26年2月12日(水)

19:00~

場 所:滝沢市商工会館

出席者:

久保谷康夫、瀧山郁雄、岩手郡医師会事 務局(近谷)、雫石ゴルフ場 大我さん 4名

昨年の幹事の北上医師会より開催までと 当日の資料などをいただき参考にした。岩 手郡医師会が平成16年に幹事をした際の資 料も参考にした。

零石ゴルフ場の担当者よりゴルフ場から の予想経費と当日の流れの想定や予定の話 を聞きいた。事前、当日、開催後として久 保谷先生を中心に話を進めた。

*決定事項

- 開催日時、場所 平成26年9月21日(日)、 雫石ゴルフ場
- 2 岩手郡医師会内の役員 大会副会長 髙橋邦尚 運営委員 篠村達雅、久保谷康夫 実行委員 北上 明 競技委員 瀧山郁雄 以上が決定となった。

- *今後の検討、話題になった件
- 1 前年は委員の他に医師会役員を中心に 総務、会計、競技、宣伝の役割を担って いただいた方が各5名程度と当日の役割 分担は次回あたりに具体名を入れるよう 考える。
- 2 参加予定は100名から120名程度
- 3 予算は約150万円
- 4 申し込みの締め切りは7月31日とする。
- 5 その他
 - : 遠方からの参加者の前泊の想定。開会 式は練習グリーン、始球式はカラマツ の1番ホール大会会長と副会長の記念 ボールを打っていただく予定などの場 所と進め方。
 - : スタートは4コースから一斉に9時10 分ころまで医師会スタートしその後は 10時30分頃まで一般のプレイヤーが入 る。: バックティーは使わない。
 - : 支出内容について会計士に確認する。
 - :案内を印刷会社へ頼む。
 - :表彰式、懇親会の進め方(アトラクションにバンドなど)の他 今後の検討事項などが話された。
 - : キャディは20組分ですが、なんとか全 パーティにキャディ出せるよう検討 (大我さん)

県医師会より当日は3名程度手伝い予 定

勤務医部会総会

日 時:平成26年3月1日出

14:00~

場 所:岩手県医師会館

3月1日午後2時から岩手県医師会勤務 医部会幹事会、午後2時30分からは勤務医 部会総会が開催され、午後3時からは病院 部会との合同研修会と講演会が開催されま したので以下報告いたします。

勤務医部会幹事会では日医の勤務医部会の報告がありましたが、特に例年と比して変化はないとのことでした。

医療事故調査会の設置が政府の決断によって本決まりになったことで、医療事故 発生に伴う警察の介入は止みそうですが、 制度の完成までは5年は最低かかるとのこ とで、この間、犠牲者が出ないと良いね、 などの話がありました。 最近のトレンド「地域での看取り」は一層ドライブがかかって、本県でも医療局 = 県立病院がコアになって地域の診療所、施設など総ぐるみで研修会に乗り出すそうです。

既に情報は発信済みだとのことですが郡 市医師会に届いているでしょうか?

3時からの講演会は、オープン参加で一般の参加者も含め150名以上、山口赤十字病院名誉ホスピス長の末永先生によるご講演『在宅での看取り~地域連携のあり方~』でした。

また、3月21日キャラホールで開催される、甲府市でご開業の内藤いづみ氏による講演会:『「いのち」に向き合う』のCMが同封されておりました。

二戸地区:カシオペア連合では、元々医療機関の数が少ないのでまとまりやすいとのことでした。

(文責:高橋 明)

第1回岩手郡医師会選挙管理委員会

日 時: 平成26年4月16日(水)

18:30~

場 所:滝沢市商工会館

出席者:

高橋会長、篠村達雅、久保谷康夫、 土井尻健一、高橋 真、植田 修、 金井 猛、事務局 近谷正広

会長より開会の挨拶がありその後、篠村 委員が進行をした。

選挙管理委員長、副選挙管理委員長について

選挙管理委員 篠村達雅、久保谷康夫、 土井尻健一、髙橋 真、植田 修、金井 猛の6名とし委員長を篠村達雅、副委員長 を土井尻健一とした。

定款細則とおり委員の任期は2年とする。

経緯

監事の任期は昨年の当会の総会にて日本 医師会、岩手県医師会に合わせて3年とし ているので現段階で監事は2年の任期が 残っている。

今回は理事のみの選任とする。

今後の流れ

岩手郡医師会定款、岩手郡医師会定款細 則の確認をした。

4月21日を公示とし会員へ書面で伝え る。締め切りを5月7日17時とする。

4月21日から5月7日まで選挙の公示を 岩手郡医師会ホームページに掲載する。

立候補者は委員長宛てに立候補届等を請 求する。

定款細則27条のとおり立候補者が定員を 超えた場合は選挙とし、超えない場合はほ かの方法とすることを確認した。

帳票の確認と公示案内の文章の確認をした。 次回の選挙管理委員会の予定を立候補締 め切り後とする。

篠村委員長より委員会としての討議の修

岩手郡医師会学術講演会

日 時:平成26年4月18日金 19:00~

場 所:メトロポリタン盛岡 NEW WING

学術講演「認知症の発生制御を見据えた 糖尿病治療について

武田薬品工業 (株) 海老原卓様

特別講演「地域連携を踏まえた 認知症治療モデルの構築」

> 医療法人平成会 平成病院 精神科 院長 坂本眞一先生

座長:岩手西北医師会 学術担当 紺野敏昭先生

出席者 69名

日 時 平成26年7月24日休 19:00~ 場 所 メトロポリタン盛岡 本館

特別講演「これだけは知っておきたいC型 肝炎患者・キャリアへの対応」

岩手医科大学 内科学講座 消化器内科肝臓分野 講師 宮坂昭夫先生

座長:岩手西北医師会 総務理事

植田修先生

参加者 20名

日 時 平成26年7月28日(月) 19:00~ 場 所 メトロポリタン盛岡 本館

岩手西北医師会認知症支援 地域ネットワーク学術講演 活動報告「岩手西北医師会認知症支援地域 ネットワークの現状と今後し

紺野敏昭先生

特別講演「つたえる・つながる・ささえる -社会全体で支える認知症ネットワーク-砂川市立病院 認知症疾患医療センター センター長 内海久美子先生

座長:岩手西北医師会 学術担当

紺野敏昭先生

参加者 75名

□時 平成26年8月20日(水) 19:00~一般公演「糖尿病予防を目指した食事管理」滝沢中央病院 栄養科 齋藤純子先生

座長:岩手西北医師会 木村秀孝先生

特別講演「**高齢者の糖尿病治療を考える** - **腎機能低下と認知症を考慮して**-」 かねこ内科クリニック

金子能人先生

座長:岩手西北医師会 大河原真澄先生 参加者 39名

第5回一般社団法人岩手郡医師会総務会

日 時:平成26年4月23日(水)

18:30~

場 所:滝沢市商工会館

出席者:

髙橋会長、栃内副会長、久保谷副会長、 篠村総務理事、遠藤会計士、事務局近谷

髙橋会長が開会挨拶をして髙橋会長の議 長で議事を進めた。

・岩手郡医師会理事の選挙について篠村選挙管理委員長、事務局より次のように説明があった。4月16日に第1回の選挙管理委員会を開催した。

選挙管理委員 篠村達雅、久保谷康夫、 土井尻健一、髙橋真、植田修、金井猛の 6名とし、委員長を篠村達雅、副委員長 を土井尻健一、定款細則とおり委員の任 期は2年とする。

監事の任期は昨年の当会の総会にて日本 医師会、岩手県医師会に合わせて3年と しているので現段階で監事は2年の任期 が残っている。今回は理事のみの選任と すること。

今後の流れとして4月21日を公示とし会員へ書面で伝え、締め切りを5月7日17時とする。

4月21日から5月7日まで選挙の公示を 岩手郡医師会ホームページに掲載してい る。

事務局を岩手郡医師会に置くこととする。立候補者は委員長宛てに立候補届等 を請求する。

定款細則27条のとおり立候補者が定員を超えた場合は選挙とし、超えない場合はほかの方法とすることを確認し、次回の選挙管理委員会の予定を立候補締め切り後とすると報告があった。

- ・平成26年5月17日総会にむけて、会長より約2年前より医師会名称について全会員へアンケートをとり総務会、理事会で検討いただき候補となっている「岩手西北医師会」で総会で承認をいただき定款変更、登記や各関係機関へのお知らせをしていく予定と話した。
- ・決算、予算、事業計画について遠藤会計 士より説明があった。予算として研修、 講演会、会議の計画が充実したところと 計画と委託費(事務職員)の分を増やし た分が300万円増えている。その他はほ ぼ予定通りと決算案、予算案の作成には かなり時期的にかなりタイトであったこ と説明があった。
- ・来年度の選挙と岩手県医師会へ理事につ

いて話しあった。代議員、予備代議員の 選出について当会の総会後の5月21日ま でに県医師会へ推薦する。この推薦期限 が当会の総会の日程を早めたこととなっ た。

- ・定款及び定款細則について話し合った。 医師会名称と理事の定員が変更になると 定款を変更し県へ届け各関係機関へお知 らせなどをしなければならない。細則の 役員選任のところは前総会で認められた が議事録署名人のところについて意見が あったがその分が以前のように総会議事 録は「総会参加の会員の中から議長が指 名する」とすることで細則の全体の承認 をもらうようにする。
- ・総会案内、次第の送付について送付案を 見ていただき承認された総会開催の日程 の都合上4月28日へ会員へ到着するよう に送付する。
- ・委員会について 会長より案が示され了 承された。学校部会を総会前に開催を予 定。
- ・認知症(認知症ネットワーク)、在宅(在 宅医療介護地域包括ケアシステム)につ いて現在の認知症ネットワークの紺野先 生が中心となった立ち上げからの活動、 在宅医療に関して会長より行政や病院、 診療所、介護施設などとのネットワーク について話があった。
- ・休日当番の平成25年度分の支払について 事務局より平成25年度の負担金の入金が あったこと、分配の準備をしている。26 年度も同額の契約となる件を報告した。
- ・インフルエンザ対策(県央保健所) 岩手 郡医師会内の病院も受け入れ施設として もらえるかとの件、栃内副会長、久保谷

- 副会長より呼吸器の医師の件や設備など の件で難しいと話があり今回は岩手郡医 師会の病院はなしで連絡をすることとし た。
- ・災害マニュアル、緊急連絡網について 災害の大きさによるが基本的に行政と対 策本部の運営を一緒にすることが望まし いのではないか現在、災害マニュアルを 再検討している市や町があり、そちらを 参考にしていくこととした。
- ・岩手県医師会親睦ゴルフ大会について 久保谷先生より

第1回の実行委員会を2月12日滝沢市商 工会で開催し髙橋会長(大会副会長想 定)、久保谷先生(実行委員長)、篠村先 生、北上先生、滝山先生とした。開催日 時を平成26年9月21日雫石ゴルフ場した と報告があった。事務局より各郡市医師 会へ日程のFAXを送付したことの報告 をした。

- ・岩手県野球大会について 平成26年8月 24日花巻で開催 参加希望者は当会は紫 波医師会と合同チームを予定しておりそ ちらへの申し込みになる予定で伝えるよ うに考えたいと会長より話がありまし た。
- ・iPadの使用について 会長より現在の ハードは役員に使用いただくが通信料を 9月をメドに個人負担とできないかと話 があり了承された。
- ・その他 会員の入会、退会について 事 務局より25年度の入退会と会員数につい て報告があった。

会長が閉会の挨拶をして終了した。

一般社団法人岩手郡医師会平成26年第1回理事会

日 時:平成26年4月30日(水)

19:00~

場 **所**:ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING 出席者:

高橋牧之介顧問、及川忠人参与、髙橋邦 尚会長、栃内秀彦副会長、紺野敏昭副会 長、篠村達雅総務理事、佐々木久夫理事、 森茂雄理事、山口淑子理事、髙橋真理事、 植田修理事、北上明理事、西島康之監事、 金井猛監事、遠藤公認会計士、近谷正広 事務局

髙橋邦尚会長が開会の宣言と会長挨拶を した。

議長を髙橋邦尚会長として始めた。

報告事項1として選挙について篠村達雅 選挙管理委員長より4月16日に第1回の選 挙管理委員会を開催し公示を4月21日より 5月7日とし会員へ公示のお知らせを送り 岩手郡医師会のホームページに掲載してい ることを伝えた。選挙管理委員は十井尻健 一先生、久保谷康夫先生、髙橋真先生、植 田修先生、金井猛先生、篠村達雅先生の6 名、選挙管理委員長は篠村達雅先生、副院 長に十井尻健一先生で任期は2年である。 幹事の任期を昨年は日本医師会、岩手県医 師会との関係で3年としたため今回の選任 はない。今回は理事のみの選任となる。理 事の立候補者が定員を超えれば5月17日の 総会当日に選挙を行い立候補者が定員を超 えなければ他の方法によることがきる(定 款細則27条)と伝え出席者は了承した。

報告事項2として総会の開催案内送付について資料案が示され出席者より了解された。

報告事項3として認知症ネットワークについて紺野敏昭ネットワーク代表よりネットワークの立ち上げと今までの活動と今後について説明があった。高橋邦尚会長より在宅のネットワーク(在宅ボックス)について活動開始に向けての状況の説明があった。

報告事項4として事務局より休日等当番 医の担当施設への回数に応じて支払うと前 総会で決まり平成25年の分の各施設の振込 口座など確認させていただくなど準備をし ている。25年度の対象医療機関は44施設、 回数は述べ355回となった。実際の支給は 6月頃の予定であること。26年度の契約は 25年度と同額になったことを報告し出席者 は了承した。

報告事項5について髙橋邦尚会長より県 央保健所より盛岡圏域新型インフルエンザ 対策で岩手郡医師会管内の病院で感染症指 定医療機関等の入院協力医療機関となって いただける病院があるかとの相談を受け総 務会で話し合ったが呼吸器の専門医の常勤 や設備で協力できる医療機関はないのでは と話し合われたと報告し話し合い現状では 難しく報告のとおりと賛同を得た。

報告事項6岩手県医師会親睦ゴルフ大会(担当が当医師会)について久保谷康夫 実行委員長が欠席のため事務局より報告が あった。実行委員に久保谷康夫先生、篠村 達雅先生、北上明先生、瀧山郁雄先生を委 員とし2月12日に第一回の実行委員会に開 催した。ゴルフ大会の日程を9月21日雫石 ゴルフ場で開催とし、県医師会、各郡市医 師会へ連絡をした。開催に向け実行委員の 他にも会員の多数の協力が必要であるので お願いしたいと報告があった。

報告事項7について髙橋邦尚会長より現在のゆとりが丘クリニック内の事務所が手狭で業務をこなすのが困難となっている。 クリニック近くの髙橋邦尚会長が個人的所有の建物の1室に移転したいこと、家賃は約10万円程度を想定していると報告があり出席者より了承を得た。

報告事項8について現在の会員について 事務局より4月1日現在で87名であること。 25年度の入退会の状況の報告があった。

協議事項(1)1 平成26年5月17日総会に むけて 総会次第案についてお知らせと次 第案が示され出席者より承認された。

協議事項(1)2 医師会名称について髙橋 邦尚会長より1年半前よりアンケートなど をとり総務会、理事会で幾度も検討され現 在の候補である岩手西北医師会として総会 で協議をしたいと発言し出席者より承認を 得た。

協議事項(1)3 決算案、予算案について 遠藤公認会計士より資料を元に報告と説明 があり出席者より承認された。髙橋邦尚会 長より事業計画案が示され承認された。

協議事項(1)4 岩手郡医師会への代議 員、予備代議員、理事の推薦について髙橋 邦尚会長より人選の前に前回の推薦で岩手 郡医師会の総会で紺野敏昭先生を推薦する ことになっていたがどういう訳か山口先生 となったことについて岩手県医師会へ喉に 骨が引っかかっているような気持ちでおる 会員もいることを説明した又当事者の紺野 先生、山口先生は大変な思いをしたと思う と話をした。及川忠人先生より当時の会長 として組織上難しい判断でした十分な理解 が得られず現在まで至ってしまっているこ とに反省すべき点はありますと話した。髙 橋会長より今回は今までのことは水に流し 岩手郡医師会全体の意見として気持ちよく 推薦したいと話があり協議された。協議の 結果、岩手郡医師会より岩手県医師会理事 推薦に山口淑子先生、岩手県医師会代議員 に髙橋真先生、植田修先生、岩手県医師会 予備代議員に森茂雄先生、北上明先生とす ることを岩手郡医師会の総会で理事会案と して協議することにした。

協議事項(1)5 定款及び定款細則について高橋邦尚会長より理事の定数を6名から13名を6名から15名に変更したいと話がありその後協議し承認された。篠村達雅総務理事より医師会名称と理事の定数の変更が総会で決議されたとすると定款の変更、県への届け出、登記の手続きが必要になると発言があった。協議し司法書士に登記など依頼して対処することにした。

協議事項(2) 委員会について髙橋邦尚会 長より26年度も理事、会長の前提で岩手郡 医師会内の学校部会、学術、地域担当、広 報など案を示し出席者より承認された。 協議事項(3) 岩手県野球大会について会長より8月24日に花巻での開催となりますが岩手郡医師会は単独チームとしての参加は見送り、岩手郡医師会の会員の中で参加の希望がある場合は他医師会のチームへ合同チームとして入れてもらうことでいかがかと問うたところ出席者より了承された。

協議事項(4) iPadについて9月をメドに 通信費を現在の岩手郡医師会でに支払を個 人の支払いとしていただきたいと思います 協議をお願いしますと話し出席者で協議を して通信費を10月分より個人払いでよいと した。

(5) その他として髙橋邦尚会長より高田 診療所支援をしていただいている小児科、 耳鼻科、皮膚科、眼科の先生に感謝を述べ た。

髙橋会長よりその他がないか、総会で協議する事項での追加はないかと確認したが特に意見がなく髙橋邦尚会長が閉会の辞を述べ閉会した。

岩手郡医師会認知症支援地域ネットワーク第2回事例検討会

日 時:平成26年5月14日(水)

18:30~

場 所:滝沢市 ふるさと交流館 学習室

事例検討会は検討したい症例を持ち寄って、医師だけでなく包括支援センター、担

当ケアマネージャー、介護職員など多職種間での問題点や情報の共有を目的として行います。

事例提出のフォーマットは別紙の形式に 記載して提出願えれば幸いです。

岩手郡医師会広報委員会議事録

日 時: 平成26年5月17日(土)

14:00~

場 所:盛岡グランドホテル 曙の間

出席者:

高橋邦尚、北上 明、事務局、 藤平氏(ホームページ制作)

欠席者:

ヤマダプランニング八重畑氏

髙橋会長が進行。

名称変更をホームページで知らせる。題 字を栃内先生にお願いをしている。

行事予定の確認をした。

医報の発行について 年2回 6月から 遅くても7月上旬と1月遅くても2月中旬。

ホームページ移行時期 藤平氏より必要

なデータが集まってきていない部分があり準備いただきたいと話が合った。最低限の準備で移行をするように会長より話があった。

その中の各市町村担当の先生の写真について本日、総会開催前に撮れる先生がいた ら撮る。

ヤマダプランニングから打ち合わせ内容のリストにしたがい協議をした。

○医師会で行っていただきたい項目 原稿依頼、原稿収集、講師のプロフィー ル、行事の写真、表紙内容の候補 ○ヤマダプランニングで行うこと

作業予定の作成、原稿内容の確認と提 案、ロゴマークの作成、編集・印刷・発行

その他

会長より原稿の流れで投稿者より直接、ヤマダプランニング、藤平氏へデータを送る方法(FAXでの連絡シート様式を作る)も取り入れる。原稿の催促を広報委員のほうで行うなど話し合われた。

岩手郡医師会学校保健部会議事録

日 時:平成26年5月17日(土)

14:30~

場 所:盛岡グランドホテル 錦の間

出席者:

佐々木久夫先生、上原先生、篠村先生、 髙橋会長、事務局

欠席者:

山口先生、金井先生、山田先生、鈴木先 生、藤井先生、小西先生

平成25年 活動 平成26年度 計画

岩手郡医師会の学校保健部会の委員 岩手学校保健会への推薦(現在 金井先生)

会長が進行をした。

我医師会より岩手学校保健会へ委員(副 会長)を出していますが今回は誰を出すか。

上原先生より「岩手県医師会での役割を

考え山口先生だと思う。岩手郡医師会の中の学校部会(学校保健委員会)の長も理事である山口先生であると思う。|

岩手郡医師会の中の学校保健委員会を上原先生に長となっていただき形を作っていただき、次世代へ渡してほしいと参加の先生方より話が合った。

上原先生より「筋を通した形でないと受けることはできない。」

会長より「岩手郡医師会の学校保健委員会として理事以外の先生にも参加いただきたい、総会で話をしようと思っています。 理解を得られた場合は上原先生に考えていただきたい。」と話があり岩手郡医師会の学校保健委員会としてその中の委員の人選をし委員長を決め、他団体への推薦をする。活動報告、活動予定もその中で早々に検討すると話し合われた。

当日の閉会後に髙橋会長より山口先生へ岩

手学校保健会の副会長を依頼し承諾を得た。 あわせて岩手郡医師会の学校保健委員会 を早期開催し活動報告、計画、各団体への 圏次や役員の推薦などを協議することを話 した。

を早期開催し活動報告、計画、各団体への 各市町村の学校の学校医の調査をするこ 屡次や役員の推薦などを協議することを話 ととし事務局で対応することとした。

第1回一般社団法人岩手西北医師会理事会

日 時: 平成26年5月17日(土)

 $17:25\sim17:45$

場 所:盛岡グランドホテル

出席者:

植田修理事、北上明理事、久保谷康夫理 事、紺野敏昭理事、佐々木久夫理事、篠 村達雅理事、高橋明理事、髙橋邦尚理事、 髙橋真理事、立本仁理事、栃内秀彦理事、 森茂雄理事、山口淑子理事、西島康之監 事

事務局長 近谷正広が仮議長として進行した。

岩手西北医師会役員の選任について 定款の定めに従い会長1名と副会長3名 以内、総務理事2名以内の互選をする。最



初に代表理事である会長について協議をいただきたいと話し、協議し髙橋邦尚理事が引き続き会長(代表理事)と決定した。被 選定者はその就任を承諾した。

髙橋邦尚会長が議長となり副会長3名と 総務理事2名について協議をして選出した。 その結果以下の通りとなった。

会長(代表理事) 髙橋邦尚理事

副会長 紺野敏昭理事

副会長 久保谷康夫理事

副会長 栃内秀彦理事

総務理事 植田修理事

髙橋邦尚会長が挨拶をした。 17時45分髙橋邦尚会長が閉会を告げた。



各種 行事報告

医師会集団検診

□日 時:平成26年6月11日(水) 6:30~

場 所:滝沢市公民館

受診者 岩手西北医師会 60名

岩手八幡平歯科医師会 61名

岩手県医師会野球大会

共 催 花巻市医師会

□日 時 平成26年8月24日(日) 8:00~

■場 所 花巻東高校グランドほか花巻市内 岩手西北医師会は懇親会へ役員5名参加

岩手県医師会親睦ゴルフ大会

■幹 事 岩手西北医師会

□ 日 時 平成26年9月21日(日) 7:40~

場 所 雫石ゴルフ場

参加者 81名

岩手西北医師会産業医研修会

□日 時 平成26年10月4日仕) 14:00~

■場 所 アステラスファーマテック西根工場

■講 師 智田徳文先生

講演「産業医に必要なメンタルヘルス」参加者 33名

(岩手西北医師会以外17名参加)

担当 理事 森 茂雄 理事 髙橋 真

_{みんなの}いわて 医協

ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料等々・保険事業・医療廃棄物処理事業(収集から各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険事務代行事業

TEL.019-626-3880 紫河 0120-054-222 FAX.019-626-3883

URL http://www.ginga.or.jp/~isikyo/ E-mail isikyo@rose.ocn.ne.jp



仲間便り

葛巻町から

故 我 に あ り 一先人への挑戦—

葛巻町 西島 康之

「我思う、故我にあり」とはフランスの高 名な哲学者デカルトが提唱した有名な命題 である。

人生とは今日一日の事である。だから今日一日を大切にして行かねばならない、そして自分自身が現状を変えられる唯一の人間なのだ。だからその夢が何であれ、それを追い求めるべきである。

夢は逃げない、然し我々には過去が希望を 与えてくれている筈だ。未来の事は分から ない。

私の祖父は、明治の初期、ここの集落の 村医者だった。未熟の医学と医術を憂いな がらも、誠意と愛情をもって患者に接し続 けて、短い生涯を終えた。

この土地の俗謡にこんなのが残っている。
いささ、いささと、医者殿の馬こ、
いさに乗られて、いそぎ行く、
いささ、いささ、いささ。
むこうを通るは、医者殿の馬か、
みたて終わって、かえり来る、
いささ、いささ。

これは私の祖父のことを歌ったものだろうといわれている。

そして殆ど医療費の収入の見込まれな かった貧農を回診しているうちに馬上で発 病、落馬して典型的な村医者の一生の幕を 閉じた。

私はこの風土の中で、古い体質の村医者

を標榜して育ったのは、そんな環境と、祖父 に対する共感と敬愛の念からかも知れない。

人生は唯此の世に一度だ。やりたい事を やった方が良い。挑戦する事を恐れるより も、しない事を恐れるべきではなかろうか。 「不惑を過ぐ」と言う佐々木一夫先生の著 書がある。先生は同書の中で、上医は国を 愛し、中医は人を愛し、下医は病を癒すと いうが、その下医さえ怪しくなってきた。 せめて中医の道を歩む名案はないものか」 と嘆いておられたが、私の先生に醸し出さ れるイメージは、医師の倫理に対する冷酷 な世論の中にあって、モラルの向上を説き 続けた、我等の大先輩と言った印象だけが 残るのである。

医師特に開業医は、通俗的な意味での科学者だけでもいけないし、技術者・職人でもいけないのだろう。医師以前の人間性としてのヒューマニズムが必須の条件であることは勿論である。

「少にして学べば、壮にして成すあり。壮 にして学べば、則ち老いて衰えず。老にし て学べば、則ち死して朽ちず!

といった佐藤一斉の言葉を、今一度再認識して、ささやかながらも学術研学と人格形成の終身研鑽を重ねながら、村医者としての先人達の跡を慕い、遠い長い道をめざして。田舎医の宿命と思い前人達の遺訓に応えたいものと念願している。

仲間便り

八幡平市から

ゴルフ大会そして岩手郡医報

八幡平市 嶋 信

徐々に山野も紅葉がすすみ秋らしくなって参りました。秋日和の一日、平成26年9月21日(日)県医師会親睦ゴルフ大会が岩手西北医師会(旧岩手郡医師会)の担当で、県内30歳代~80歳代(参加者81名)のゴルフ愛好のドクター(含御夫人)を雫石町雫石ゴルフ場にお迎えして、好天のもと行われた。

「スコアの良し悪しは今日の晴天をみれば天候のせいには出来ません。あくまで実力です。」と県医師会長 石川育成先生が表彰式の席上述べていましたが、さすが上位の先生はスコアもよく上機嫌でした。

過去48回のうち旧岩手郡のときは5回程 担当していますが、県北医師会(久慈・二 戸・岩手郡の三医師会)の連合での担当で あり、岩手西北医師会(平成26年5月より) となって単独で担当するのは初めてで、現 役員の先生も殆どゴルフをやらない先生方 でもあり、この大会にプレーヤーではな く、旧役員の一人として参加した際に、現 会長(髙橋邦尚先生)よりたまたま話題と して、県医師会で行う「野球」と「ゴルフ」 のうち、今年は我が医師会は野球には参加 者が少なく不参加となったことを残念に思 い、古い時代の話にさかのぼったとき「岩 手郡医報」の話が出て、これについては広 報担当として携った関係で「創刊号」より ファイルしてあると言ったところ、ぜひ会員の皆さんに紹介したいということになり、自分としては「いわて医報」(1975年1月号~)も含めて近々処分しようと思っていたところですといったら、早速それをいただきたいということになり、長い歴史の中、貴重なものとなってしまい、これを処理していただくことになった。

即ち創刊号より年代毎に分類して総め上げる。「岩手郡医報」については創刊号より第19号までは先輩の先生方により発行されましたが、第20号(昭和61年7月号)より担当となりました。

やはり苦労したのは表紙の写真と説明文ですが、できるだけ岩手郡内の施設、山野草など自分で写真を撮って表紙絵としました。その他、第28号(平成2年3月号)より岩手郡内の「医院の先生像」を従業員の方々に文章とイラスト、写真を添えてもらい「おらほの先生」のタイトルで記事としました。

それぞれ依頼すればとても好意的に書いてくれました。そんなこんな思い出が浮かんできます。

これからの岩手西北医師会として、滝沢 市、八幡平市、葛巻町、岩手町、雫石町の 各地域医療に取り組む姿勢を住民にアピー ルしてほしいと期待しています。

郡市医師会編

たが、餓死者は四万人を超え、 なくなり、 権力をふるい、 の俸禄を含めて、 官所を置いた。 いだが、代官は年貢取立ての手をゆるめない。 し代官所は農民のため、 貞享三年 (一六八六) 元禄八年(一六九五)の大飢饉には、藩庫から米穀味噌を放出し 手 郡 医

現会長 上野精三

四年 生命をつないだ。 凶作飢饉が襲い、 二万六千を数え、 (1七01)

笹の実で 餓死者は またも 元禄十

各所から減免運動が起った。

は 整理した際、沼宮内通りに 代官所区域を三十三通り 「御蔵奉行」がおかれ、

岩手 郡 医師会

史

南部藩では領内を三十三通りの行政区域に分け、二十五カ所に代 代官は藩公の代理として君臨し、藩主と代官御給人 警察・税務・役所の権限一切を持って臨んだ。 ほしいままに年貢を割当、 何一つめんどうを見ない。治山・治水も数 賦課し、農民に対して しか

年の交替制なので農民側に立つ者もいない。 北上川には硫黄が流れた。 農民は酸性降灰に対抗する術も知らず、 岩手山が大噴火を起し、 それから数年、 灰は花巻地方まで 雑魚の一匹もすめ 不作凶作が相次

> 御給人と呼んでいる。 藩軍は雫石に宿営地を設定して戦った。 藩庫三棟を建てて管理し、 秋田境の警衛のため若干の藩士を置いたので、 戊辰戦争の際には、 農民に君臨し、 **雫石通りには** 橋場口の路に当るので、 この藩士を 「代官所」

をかけている。 の役医の名は僅かしか判っていない。 ら御目見得を申しつけて、役医に取り立てている。他の通りの代官 特権階級者の医者は「御役医」と呼ばれ、各代官所で、 の病人には勤まらなかったのであろうと推察される。 禄で迎えており、 たいてい上方から迎えていたので、医者も上方の医者でないと奥向 **雫石通御給人** 「御役医」の名が残されているが、沼宮内御蔵奉行と雫石代官所 数年で帰郷した。つぎつぎと江戸南部邸で目をつけた医者を高 部侯の医者は御城医者と称し、殆んどが京都江戸から招かれた 岩手県史の藩政後期の御給人内訳の 領内の医師を殆んど登用しない。藩侯の妻女は、 五十石以上の者は無く、 今後の郷土史家の研究に期待 以下が五人、与力一名、 一覧表には、 町医の中か

同心二名、 沼宮内通御給人 役医二名、 百石以下一名、五十石以下十三名、 とあるが名前はわからない。 与力一名、

役医一名。

云々」とある。 を祭る。 を抜ふ』と云へり、 に盤古真王と云い、 へり。思うに此神を祭るは、特に我が皇国のみにあらず西器太古伝 陸中史稿には「陸奥岩手郡巻堀村に金勢宮ありて淫祠 蓋し我皇国此神を祭ること甚だ古し、古語拾遺に 天保中印行の陰陽石神図に信濃小懸郡根沢村にありて 杜陵古事記には 印度蔵志に大梵自在天皇というも即ち此神なり 巻堀祠は南部藩の医員飯富氏に始まりしとも云 「沢田金勢明神は寛永中、 なり。 『以て虫

岩手県医師会史

の淫覆を止めず、時々游行をなすという。 霊人この犯罪を悪みて鉄のくさりを以って繋ぎたりと云へども猶そ たわむるる事あり。これ金勢神の淫費なすが故なりという。中古一 男根にして、土俗伝えて此村の少女十三、四歳になれば一夜夢中に 神いつの頃より祭れるという事を知らず。 東山志には 刑部絶家す。 の建立なり。 「巻堀村の民家に惣七なるものあり。金勢明神を祭り此 鰐口には 再興願主飯富了通とあり。 もと刑部が家従七助の信仰にて建立せらる。 しとあり、 神体は唐金を以て造れる 」と記している。 七助と惣助は の後

学んだ人だろうと云われている。 通は筑前で生まれ、 再興願主の「飯富了通」とは、 南部侯に取立てられ、十五人扶持、外に合力金若干で召抱えら 延宝元年には二百石に加増された人。 長崎で外科医学を修めているので、 寬文五年 (一六六五) 父は駿河の人である。了 外科医とし 蘭法外科を

何しろ不来方城の隣接地なので明治維新になっても、

盛岡城下の

同一人か否かはわからない。

十四人と県内最多となり、 第一区となった岩手郡は、 変り様の蔭にかくれて大きな変革が伴わない。 治十五年には盛岡地方の南岩手郡は、 明治五年、 明治七年種痘医制度が設けられ、 北岩手郡は内外科七名。 盛岡県から岩手県に変り、沼宮内出張所が閉鎖され、 遠野三十一、花巻二十三と続いている。 盛岡をも包含しているので、 種痘医二名と記されている。 中央から新進医師が来県し、 内外科七十名、 種痘医二十四 医師数も五 明

明治九年から始まった郡立病院計画も、 勉強するものは盛岡へ出て出世している。 北閉伊郡岩泉村に公立病院設立の計画があり、 盛岡圏として北岩手郡は 何書

> にある山 崎忠治は下厨川 の人であっ た。 医員履歴書には次の通りあ

る。

岩手県平民陸中国岩手郡下厨川 村居 住

郡雫石村ニ於テ、洋法医術内外科開業。 岩手病院へ勤仕。 治十年十二月ョリ同十二年四月迄岩手医学校へ入学、 カ月間、 郎 慶応元年一 明治十二年十月十五日県令島惟精代理 陸中国東中野村坂本春江二従ヒ洋方医学内外科修業。 月ョリ 明治十二年四月ョリ同年六月迄陸中国岩手医学校附属 漢法医学修業、明治二年一月ョリ同五年二月迄三年二 明治六年一月ョリ同九年八月迄、 同三年十二月迄三年間、 陸中国東中野村上野祐 岩手県大書記官岡 陸中国南岩手

書である。 部綱紀より内務卿伊藤博文へ提出、 とあり、 (岩手県史第十巻) 十月二十九日認可されている文

この北閉伊郡病院は地方税支弁なので財政が伴わず、 明治十九年

までに廃止された。

明治十五年の県統計書によれば、

南岩手郡 (盛岡市及び周辺の岩手郡) 内外科七十名 種痘医二十

北岩手 郡 (現在の岩手町・ 西根町· 松尾村) 内外科七名

二名

四名

とあり、 気仙・江刺・ 磐六十五、 手郡には非常に少ないことがわかる。気仙六十一名、 南岩手郡は盛岡があるので多いが、 痘医六、西磐五十二、痘医六、江刺四十一、痘医七と、 東和賀四十九など、 北上山系町村に多いことがわ 北岩手郡即ち現在の岩 痘医四名、

郡市医師会編

興に活気づく東北本線筋に医師が多く集まるようになった。 と、気仙・江刺・東和賀の医師が減り、反対に、人口増加、産業振 が盛岡から青森まで通り、好摩・沼宮内・奥中山の各駅が開業する 井村・御堂村・川口村等が編成されたが、明治二十四年、東北本線 明治二十二年に市町村制が公布されて、盛岡市・沼宮内町・一方 る。

ようである。
はいので、県下で明治十五年五百四十二名とかっている。当時は岩手県岩手郡盛岡市と記載するのが正しかったなっている。当時は岩手県岩手郡盛岡市と記載するのが正しかったなっている。当時は岩手県岩手郡盛岡市と記載するのが正しかったはり三十二年には四百十七名と減り、東磐四十七、盛岡と西磐が三なっている。当時は岩手県岩手郡盛岡市と記載するのが正しかったはいる。

告示第二百号に、 会法が公布された。 明治十七年から各郡では郡開業医師組合を設置して、集会・ 類焼したものと思われる。 明治三十五年沼宮内町、 購演会等を行ったが、 四十二年にも大火百四十八戸が全焼とある。 役場・警察まで類焼。 明治四十年四月十六日となっている。岩手日報の 設立総会をもち、認可されたのは岩手郡医師会 その後郡医会を経て、明治三十九年医師 全焼が二百八十五戸と記され、 御堂村に大火発生、 三十七年にも沼宮内大火二百六十戸全 汽車の飛火によると 開業医家 勉強

院として隔離、同家は厳重に消毒、伝染経路不明なりとある。ため、取り払われているので、同家から百間離れた同家の厩を仮病新田町の男(四十二歳)天然痘と確定。同村隔離病舎は兵営建築の所載(菅原竜郎調査)によれば、明治四十年二月七日号に、厨川村

ている。
二月七日 下厨川船越金五郎氏医師免許証下付さる、と報道され

会開催。
明治四十二年三月二十七日 午後一時より郡役所楼上にて臨時総明治四十二年三月二十七日 午後一時より郡役所にて開催せり。

の地方有志多数列席す。 は加藤小林区署長・入間田沼宮内駅長・今野分署長・柴田・柵山他 は昨年火災にあい、 任 上にてトラホーム講習会開催。 明治四十三年十月十日 同年八月二日より四日まで、 書記等二十五名。 旧警察署跡に敷地交換、 講師は平舘村医山本茂三氏なりとある。 菊池医院移転新築披露。 講習員は郡内各学校長、 岩手郡医師会の主催により郡役所楼 移転新築披露す。 沼宮内菊池医院 町村衛生主

次世界大戦が始り、日本は青島に出兵した。 明治四十五年 改元 大正時代となり、科学振興時代を迎え、第

大正三年の郡医師会総会

,四月二十八日午前十時郡役所楼上(注=郡役所は盛岡 市に あっ

予算決算諮問事項につき協議決議す。

理由 トラホーム予防並に撲滅に付ては県が命令並規程を設け死諮問一 トラホーム予防撲滅上最も良好なる方法如何。

岩手県医師会史

来防遏に努むると雖も、 尚県下は勿論全国に於て最劣等の地位にあり。 して幾分減退の傾向を示すと雖も、 査の結果による該病患者歩合は、最近三ヶ年の成績は別表の如くに 昨大正二年度の徴兵検査の成績に依れば、甲種合格一名をも出さ 容易に其効果を収むる能わす。殊に徴兵検 百中四十の率を降らずして、今

ず、其の他に付ても未だ成績良好ならず、是れ各位に意見を諮う所 ざる町村二あり、是等は他の原因にも依るべきも、トラホーム亦一 因たり。小学校児童に付ては、各位の努力に俟つの外、常に学校職 員に於ても予防撲滅に努め大に見るべきものありと雖も未だ減退せ

諮問二 肺結核予防教治上最善の方法如何。

関する各位の意見を諮う所以なり。 ず。先に内務省が該病予防に関する命令を発し、本県亦予防規定を 理由 予防救治に関する知事の訓令を発せらる。是れが実行方法等に 爾来防遏に努むと雖も其効果遅々たるが如し。更に本年三 肺結核の遂年蔓延して多数の生命を損するもの 少な から

診断の場合、 諮問三 肺結核予防上該患者速知の方法として、 直に町村長に通知するを可なりと認む如何。(以下略) 医師に於て該症

開業せり。 駒込病院に勤務後、 大正六年二月十八日 (岩手日報より) 岩手病院に勤務、 千葉雄司氏沼宮内に開業。 今回沼宮内町猪狩医院の跡に 東京慈恵医卒。

改正で、郡内に居住する医師は全員加入することになり、 人格を得た。 大正八年 従来は、開業医だけの任意団体であったが、この時の 医師会法の第三次改正が公布され、 初めて公務上の法 医師会総

> が改正に踏み切ったのである。岩手郡医師会の設立認可は、 百四十六号を以て大正九年三月三十日であった。 なくなった。これは医師会の度重なる建議要請にもとづき、 会の議決に服することになった。勝手に実費診療所の看板は出され 告示第

大正十二年四月五日 岩手日報所載

置することにした。郡民はその日の糧を得るために、 の細民医療は、誠に心もとなしとて県下に先がけ、実費診療所を設 沼宮内町当局は多額の予算を計上し、 栄養失調、 伝染病に絶えず犯さるる日常でその姿は誠にあわれ 従来済生会に委せっぱなし へとへとに疲

大正十二年の郡医師会総会

で開催、 同年四月十五日 次の事項を審議した。 郡医師会総会は十五日午後 一時 から同会事

郡長諮問案

- 乳児死亡率低減に関する意見如何
- 医師法改正に関する意見如何

郡医師会より当局に対する建議案

- 岩手県学校衛生主事設置を県当局に建議するの件
- 岩手郡学校医会設立を郡当局に建議するの件

とするの件の 見、之の交付をなし、 療券を発行し、 本郡医師会に於いて、 本郡各町村に適当なる方法を以て窮貧生活者を発 右券所持者には各員一般に実費的診療せん 社会事業として其の部数を定め実費的治

郡市医師会編

三 医師会閉会後に医学会を開催方等々。 二 急性慢性伝染病等の通俗的予防方法の宣伝方法に関する件。

大正十二年九月一日 関東大震災起る。

死)。副会長菊池鯉之助会長代行。 二年八月十日死亡(長男元陸軍軍医少尉宏氏昭和十九年南方ニテ戦大正十四年五月二十四日 岩手郡医師会長瀬川彦太郎氏退職昭和

郡の行政区域の変遷

石村 寺田村 太田村 沼宮内町 この頃の岩手郡は一町二十四カ村であった。 川口村 御所村 一方井村 厨川村 巻堀村 滝沢村 御堂村。 米内村 浅岸村 渋民村 玉山村 大更村 藪川村 御明神村 西山村 築川村 田頭村 中野村 松尾村 本宮村 平舘村 雫

従来の滝沢村、松尾村と三町三ヶ村の新しい岩手郡が形成された。 入され岩手町(沼宮内町、 盛岡市を包んでいたが、次第に中味が大きくなって今日になってい 編入され、また医師会としては二戸郡安代町が加入となった。 村、寺田村)玉山村(玉山村、 太田の二カ村、及び雫石、 浅岸村、本宮村が盛岡市に編入。昭和三十年の町村合併法で簗川、 この間、 昭和三年に米内村、 西山村、 九戸郡の葛巻、 御明神村、 昭和十五年に厨川村、 江刈 玉山、 御所村) 川口村、 巻堀村、 二戸郡の田部の各町村が岩手郡に 滝沢の各町村の一部が盛岡市に編 西根町(平舘村、大更村、 御堂村、一方井村)雫石町 渋民村)の新町村が誕生し 昭和十六年に中野村、 所謂 田頭 年

お明治時代に衛生関係条例を制定した村があったので、摘記す

村清潔法が制定公布。現在に至っている。二十八年五月から市町布し、各市町村に衛生組合を作らせている。二十八年五月から市町が間もなく廃止。明治二十四年三月三十一日付で衛生組合準則を公れば、明治十六年以来、県衛生協議会や、郡協議会等が招集された

定等を制定して衛生活動を行った。 療所補助規定を、沼宮内村で更に汚物掃除規定、汚物監視員設置規 での他、西山村では村医制度を、沼宮内村及び雫石村では実費診

郡内で発生した大事故(二項別記あり)

傷三名、軽傷十四名が発生し、近隣医師が馳けつけ、応急処置をし行き、その帰途、滝沢駅付近で列車が脱線転覆した。死亡一名、重大正四年五月二十九日 盛岡中学校三年生の日帰り遠足で八戸に

て岩手病院に担送した。

遠の眠りについている。ま死亡するものが相次ぎ、若干名の故人は、今なお廃山の山底に永変の最中であり、落盤そのものの犠牲より、硫化物中毒で無傷のま変の最中であり、落盤そのものの犠牲より、硫化物中毒で無傷のま

ているので、 よってはじめて終熄した。 戦後昭和二十七年にも発生し、 の状況、 医専の救護班の絶大の活躍があり、 との時、 また郡内各町村民は衛生思想に乏しく、流水を水源として常飲し 死亡に至る状況、 鉱山病院関係者は救護に全力をあげ、 毎年赤痢、腸チフスが発生。 病理的所見等の詳細なる報告を求めた。 鉱山病院医員の労苦が偲ばれた。 軍も毒ガス研究の立場から現地 戦後の抗生物質の普及に 近隣の医師、 岩手

岩手県医師会史

明治大正昭和初期の医師名

とその御労苦の程が偲ばれる。 破格の文明の利器たる自転車で往診された。今日われわれが考える が郡内で医療に従事された。 記録がないのではっきりしないが、 一部の方は人力車で往診せられ、 広い地域を主として徒歩で、 古老の言によれば、 大正の後半頃から当時として 左記の方 また乗

下厨川村、 明治十二年、 北閉伊郡立岩泉病院医員とな

習会講師となる。 菊池鯉之助 山本茂三 平舘村村 沼宮内町、 医。 菊池医院。 明治四十二年三月二十七日トラホ 万延元年七月十七日生。 1 東亜 ム講

医学校卒。明治十九年試験合格。 町に盛岡病院を創立し、経営三年、 昭和初期の医師会長。鉄道嘱託医、 二十一年盛岡市に開業。 他に渡して三十三年沼宮内に開 町医、 三十年紙

本医專卒。 医師会理事。 菊池道三 鲤之助子息。明治二十六年三月六日生。大正十一年日 西比利亜満洲等に遊学後帰郷。 在郷軍人分会長。 戦後歿。 父の菊池医院をつぎ、 郡

菊池道二 西根町、 菊池道三氏の甥。戦後歿。

堀尋高外二校の校医。同村医、 院に四年勤務。大正八年好摩に開業。 現在令息正司氏所持とのこと、紛失しないよう大切に保存せられた 英国型のゼントルマンで、煙草は「桃山」だけでダンヒルパイプは 岩手県出身。大正四年試験合格、 卷堀村好摩、 内科眼科八角医院。明治二十二年十月八日 現玉山村好摩の八角正司氏の実父。 東京市神田区錦町山口眼科医 昭和三年郡医師会副会長。巻

謝向栄

田頭村、

内科謝向医院。

光緒五年一月二日生。

猪狩統一氏の実父。 生。明治四十年仙台医専卒。 沼宮内町 内児科猪狩医院。明治十五年十月三十一日 大正二年来町開業。 現盛岡市中央通

甲種岩手医学校に入学したが、十九年廃校となり、しばらく郷里に 戸藩士にして祖父源右衛門が志和代官として在動中に生れ、 なし、 改革に廃藩置県となり、祖父以来任地に居住した。明治十七年県立 のちに正岡子規の教えを受け号を子鳳と称し、 た。趣味は多方面にわたり、 昭和二年四月、盛岡病院平舘出張所主任として平舘に移り、 試験に合格し実地研究中の処、父貞安歿し、急ぎ帰郷医業を継ぐ。 あって、父岩泉貞安の医業を手伝った。後に某製薬会社に勤務の傍 岩泉周甫 済生学舎に通学した。明治三十二年四月東京に於ける医術開業 著書に「俳句集」「野菊」「子鳳集」等あり。 平舘村岩泉医院。 特に俳諧を日詰の木村半水翁に学び、 慶応元年二月二十六日 十数年俳壇の添削 生。 元南部 開業し 維新の 八

5

村に開業後、 北大医専大正六年卒、 田口弟治 平舘村、 来村開業した。 岩手病院に勤務。 外科田口医院。明治二十二年八月七日生。 大正九年秋田仙北郡生保内 東

遠藤治郎 西山村長山、大正昭和初期 なで開

村医、校医。 格。内科一般安本医院、 安本仁蔵 趣味書画狩猟 雫石村 明治三年三月十六日生。明治三十 岩手県出身。済生学舎卒。 以来来村開業、

て研究。 省出身。大正五年東北大医専部卒。 大正九年来村開業、 村医、 校医。 東京順天堂医院。 江東病院等に

平舘村、 内児科和泉医院。 明治二十二年六月二十六日

郡市医師会編

北組町に本院開業。平舘に分院を開業したもの。 のち下閉伊郡岩泉町に開業。慶応病院内科入局研究。 生。 岩手県出身。大正三年東北大医専部卒。 年志願兵として入営。大正六年北海道根室町加瀬病院勤務。 盛岡病院に勤務。 大正十三年仙 1 年

就任。 恵会医専卒。 小原有造 昭和九年菊池医院長として赴任した。 盛岡病院内科担任。 沼宮内内科菊池医院に勤務。 のち紫波郡志和村志和医院院長に 岩手県出身。 大正六年慈

勤務。 月二日生。 託校医。 味花卉盆栽。 佐々木浩吉 田 岩手県出身。 昭和四年十月院長として来村就任。 口博 昭和八年三月来町開業。 一方井村村医。趣味スポーツ、 秋田県出身。 雫石村、内科雫石他三カ村共立病院院長。明治三十年七 新制二代会長。 沼宮内町、 昭和五年三月東京医専卒。 昭和三年三月東京医専卒。 佐々木医院。明治三十七年十月 沼宮内尋高小、 旅行。 昭和九年郡医師会理事、 岩手病院眼科・外科に 昭和五十四年没。 沼宮内家政女学校嘱 母校の内科に入 十三日 趣

七月来村開業。平館、 菊池道治 岩手県出身。昭和五年東京医専卒。日本橋区矢ノ倉町加藤病院 六年四月本所区吾妻橋前田医院にて内科小児科担任。 平舘村、 内児科菊池医院。 松尾、 寺田、 大更等四校校医。 明治三十一年六月二十九日 趣味はスポー 八年

年八月来村開業。 海道空知郡砂川町に開業。 日露戦役に従軍。 山形県出身、 ·吹平三郎 雫石町、 明治三十六年四月、 趣味囲碁。 正八位勲六等陸軍三等軍医任官。 内外歯科平吹医院。明治十一年十一月 大正十五年帰郷、 済生学舎卒。 山形市に開業。 三十 除隊後、 七年陸軍軍 昭和七 七日 北

> 林崎先生(名失念) 岡部先生 (名失念 沼宮内 沼宫内 昭和初期 大正期

船越金五郎(別掲…人物編参照

居した。 医師となり軍医官として日露戦役に従軍。 高橋友庵 **雫石町**、 明治中期から明治末期まで、 後、 父子ともに東京へ転 長男友太郎氏も

栗崎民弥 雫石町、 明治末から大正期

で逝去。 安本又四郎 雫石町、 前出安本仁藏氏長男。 父仁蔵氏は九十余歳

同八年石鳥谷町に転居開業。 十八年仙台医専卒。 三田四郎 雫石町、 岩手病院、 三田医院。 札幌病院勤務。 明治十二年八月二十 大正二年来町開業。 白 生。 明治三

大正・昭和初期東京に移住。

山田吉規 青木今朝夫 雫石町、 雫石町、 昭和十九年開業、

二十年、

田

十二年試験合格。 三年来村開業。 坂本正喜 後藤先生 (名不詳) 御明神村、 志和村上平沢に転出開業。 順天堂医院・天祐堂病院・日赤病院に研究。 坂本医院。明治十五年三月十日生。 御明神村、 明治末期転出。 明治四 四十

に出向、 院長となり来盛。 満洲国吉林省新站満鉄病院長。 小野寺内科の叔父直助教授のもとで研究。学位受領。 熊本医専卒。 小野寺修二 現在日赤血液センター 第七代を継承。 岩手病院内科勤務。 御明神村、 前沢町の実兄小野寺純一博士逝去後の小野寺医院 先祖小野寺柳真は華岡青州の門人 明治三十三年八月十八日生。 在職。 のち国立下ノ関病院長に着任。 昭和二年来村開業。 昭和八年七月 昭和三年九大 大正十三年 (別項記

岩手県医師会史

享年四十二歲。

長沢長太郎

西山村、

明治二十年から二十八年まで開業。病歿。

遗藤治郎 西山村、 試験四〇一四九号。 大正時代長山に短期間開

山本茂寿 飯塚藤吾 西根町、 西山村、 終戦直前疎開開業。 明治中期の人。 終戦直後引揚げ転出。

病院勤務。 のち大正時代に短期開業。昭和二年盛岡病院内科に奉職 平舘村、 明治十二年生。 明治三十五年試験合格。 岩手

岩泉周二 平舘村、 大正時代短期開業。

新渡戸先生(名不詳) 松尾村 明治時代短期開業。

村井藤一 松尾村 大正時代短期開業。

十二年松尾村に開業。 身。大正六年、千葉医専卒、昭和二年松尾鉱山病院に勤務。昭和二 西田安正 松尾村 明治二十七年十二月十三日生れ。鹿児島県出 昭和四十六年一月二十二日、盛岡市民病院で

鹿岡順平 松尾村 鉱山病院医局。

十四年迄松尾鉱山病院長、 菱木重嗣(千葉医専卒、 後静岡県転出) 元陸軍軍医大佐)昭和十九年より昭和二

七年東北大医専卒。 塚谷顕邦 沼宫内町、 塚谷医院。大正五年五月二十日生、 昭和十

年東北大医専部卒。母校外科教室にて研究。 に来村開業。 近藤明達 大正八年五月除隊。 **葛巻村、近藤医院、明治二十六年二月一日** 現会員近藤純其氏尊父。昭和四十一年歿。 七月山形県西村山郡に開業。 のち旭川衛戌病院に入 同十一年葛卷 生。 大正五

> 開業。昭和三十五年廃業、昭和五十二年没。現会員西島康之氏の伯 大正六年東北大医専部卒。盛岡病院内科担任。 内外科遠藤医院。明治二十六年七月二十三日 大正十三年来村

父。父は遠藤斉助氏。

遠藤訒斉 小川源達 花卷出身、天保元年(一八三〇)生。 (別揭…人物誌)

明治十四年から

葛巻で医業を行う。 遠藤斉助 遠藤訒斉の孫。嘉永三年(一八五〇)生。祖父の跡を

継ぐ。

平賀先生 岡部安孝 (名不詳) 葛巻村 明治四年頃の医人。 葛巻村、 明治四十年から大正五年まで外科

趣覚静一 **莨巻村、** 明治四十年から大正九年まで。 以後侍浜に移

る。

新渡辺剛一郎 **真**卷村、 大正中期、 十年盛岡に移る。

沢木精一郎 向井田己之助 大正末期葛巻に開業。 葛巻に大正七年から数年開業。

村井先生 (名不詳) 大正十年短期間開業。

医専卒。福岡町矢野医院勤務。 川原文作 **莨巻村、** 明治二十九年五月二十九日生。 大正十一年五月葛巻村立病院勤務。 大正八年新潟

大正十二年三月野田村に開業。 **蔦巻村、** 昭和初期短期間

山田シゲル 萬卷村、 昭和八年短期間。

診療所勤務。 **夏巻村、** 昭和九年から四年間。 江刈・小平沢・小苗代

郡市医師会編

村上甫 昭和十六年江刈診療所短期勤務。

佐藤尚輔 昭和十九年岩手医専卒。 昭和四十七年没。 西根町大更、内児佐藤医院。明治四十年九月二十六日 県立大更診療所長。 昭和三十一年退任

課技官となる。 木村謹三 安代町、 昭和十三年から二~三年間開業。 のち県保険

年岩手医専卒。昭和四十年没。 佐藤宏 雫石町、 西山診療所。 大正十二年四月五日生、 昭和二十

旧制医師会時代の状況

によれば大要は次の様であった。 域で活躍中の玉山村の小野寺素行、 旧制医師会時代の記録は少なく、 古い時代の会員中現在なお、 岩手町の佐々木浩吉両先生の言 地

自堅く打ち合せの上出席して、流会しないようにしたものだとのこ 間のコタツで行い、会員二名欠席すれば会議が成立しないので、各 員数は初め五~六名しかなかった。総会も役員会も、会長宅の茶の 医師会事務所は盛岡の仁王小路岩手県医師会事務所に置いて、 会

昭和三年の会長は菊池鯉之助氏、 菊池道三氏であった。 副会長は八角胖氏。理事は猪狩

に岩手県知事から感謝状をうけた。 木浩吉氏が選ばれ、 昭和八年三月三日の三陸大津波には、 新進気鋭を買われて救護班長として出動、 会員中最年少の沼宮内佐 のち 4

等の名が残っている。 昭和七年頃から、会長船越金五郎・副会長八角胖・理事田 口博氏

> のようである。 この明治、 大正、 昭和の移り変りを沼宮内の歴史から見れば、 次

大正四年 盛岡電気会社が川口村、 沼宮内町、 御堂村に初めて送

昭和十九年 昭和十四年 大正十三年 町から平舘までバス開通。 沼宮内より葛巻へ国鉄バス開通 町立沼宮内実科高女開校。 昭和

昭和二十年 終戦。

昭和二十二年 新制医師会発足。六三制実施。

昭和二十九年 県立沼宮内病院開設。

カ村合併。 昭和三十年 岩手町誕生。沼宮内、 方井、 御堂、 Ш 口 0 町三

新制医師会時代

医、 沼宮内町で開業中の小野寺素行先生が音頭をとり、 1 して繁栄中の松尾鉱山病院に医師約十名、また郡内各町村には三井 当時開業医は沼宮内町三名、雫石町一名、巻堀村一名、 平館村二名、 勤務医の各位に呼びかけ岩手郡医師会を結成した。 敗戦のショックも、 大更村一名の十名の外、当時東洋一の硫黄鉱山と ややおさまりかけた昭和二十三年十月当時 郡内在住の開業 **葛巻町二**

の衣料事情のため「セビロ」を作れないで皆階級章なき旧軍服、 服で、 会議に参集するものは、 若い会員は学生服から直ちに軍服を着用したためと当時 年配の四一五名は戦前からの「セピ

医師一名ずつ十五名にて会員数約三十五名である。

報恩会関係、

県立関係、

農業団体関係の診療所が約十五ヵ所あって

岩手県医師会史

を呈した。

で各町村に国保直営診療所が設置せられ、 、結成当時約三十五名程だった会員も、 また松尾鉱山の繁栄でそ 国民健康保険制度の発達

員服を着用した血気漲る青年で、総会は捕虜収容所の円卓会議の観

名となった。 経営の病院も医師陣が充実、逐次会員数が増加し、 一時期約五十

られたもの多く、地域に定着するものが少なかった。 各町村直営診療所の勤務医は、 期限付きで医大各科から派遣せ

亘り東洋一の硫黄鉱山として繁栄した松尾鉱山も、 に喜ばしいことであった。 のため閉鎖或は委託経営となり、 昭和四十年代初期、石油製錬による硫黄の過剰に伴い、長年に 昭和三十年代後半になると各町村経営の診療所は膨大なる赤字 しだいに会員の定着をみたのは誠 逐次縮少より最

判断にゆだねたい。 23 機関には医師の定着をみない。 ト、このような経過をたどって今日に至ったが今なお管内公的医療 後は閉山となり、多数の会員を失う状態になった。 か、 また医師の定着を妨げる地域住人の何かがあるものか後世の 何が原因か、 県都盛岡市の周辺のた

新制医師会時代の主な事 故

と山 1 で発生した患者の救護のため、 を進めたため岩手山、 と迷惑を背負わされた。 昭和三十年代になり全国的傾向として各県市町村とも観光開発 岳愛好者、 大学ワンダーフォーゲル等の来山多数となり、 八幡平とその資源に恵まれた岩手郡は夏、 関係町村在住の医師は多大なる苦労 Щ 冬 中

西根町の炭疸病

した。 昭和四十年八月十三日西根町一帯に発生し、 患者数三六○名に達

死者も出さずに全員治ゆするを得た。 会員土谷邦彦氏は原因の究明と治療に多大な貢献をなし、 名の

「スターズ・アンド・ストライツ」社の招待を受けた。 一時国内のあらゆる新聞で土谷氏の功績が認められ、 また米国の

全日空機事故

隊訓練機と全日空機の衝突事故発生し、一瞬にして全日空機乗客乗 務員一六二名死亡し、 昭和四十六年七月三十日午後二時過ぎ郡内雫石町上空に於て自衛 自衛隊訓練生は落下傘無事降下という当時の

航空機事故としては世界最大の事故発生

作業、 当郡医師会は県医師会、 遺族の救護ならびに出動者の患者の救護等に従事した。 盛岡市医師会と共に出動し、 遺体の収容

新制医師会になってからの表彰

雫石町医師団とともに左記機関より表彰された。 一日空機事故に出動した岩手郡医師会は、 県医師会 盛岡市医師

県知事 県警本部長 自衛隊航空幕僚長 全日空 富士吉田市長

雫石町長

初代

(自昭和二十二年十月至昭和三十三年三月) 副会長上野精三

新制医師会結成以来の役員

会長小野寺素行

理事塚谷顕邦

宇土沢喜

郡市医師会編



3代 佐藤 尚輔



214 田口 博

三代

(自昭和四十三年四

八角正司

熊谷文五郎

月至昭和四十八年三月)

会長佐藤尚輔

副会長森

茂尚

理事宮杜亨

八角



初代 小野寺素行

野寺素行 井尻正次 月至昭和四十三年三月) 県医代議員佐々木浩吉 監事佐藤尚輔 会長田口博 (自昭和三十三年四 監事平野修一 理事塚谷顕邦 裁定委員近藤純造 医師国保代議員宮 県医理事上野 県医代議員小 副会長佐藤 遠藤俊次 森

尻正次 正司 昭和四十七年九月佐藤会 監事秋浜晃 裁定委員近藤純造 県医理事上野精三 国保代議員土井尻 県医代議員和田 土井



4代 森

茂尚 四代 会長代行。

長病気入院、

副会長森茂尚

会長森茂尚 月至昭和五十年三月) 長谷川貫一 理事八角正司 (自昭和四十八年四 副会長宮杜 監事熊 秋浜

会長 理事 昭和五十年四月会長森茂尚病気のため辞任。 員上野精三 医師国保代議員土井尻正次 谷文五郎 (自昭和五十五年五月至現在 近藤純造 上野精三则常会長 久慈宥一 坂井博毅 県医代議員土谷邦彦 宮杜 裁定委員近藤純造 玉山長悦 亨 土谷邦彦 秋浜 県医理事上野精三 見 医事紛争対策委 長谷川貫

五代

会員の入会・退会・異動等

【入会】

(平成26年10月1日現在)

入会月日	所属施設名	氏 名	前所属施設名	
4月1日	八幡平こどもクリニック	小 西 峯 生	新規入会(A会員)	
4月1日	さわやかクリニック	浮田昭彦	盛岡市医師会より(A会員)	
4月1日	零石町立雫石診療所	町 田 孝	沖縄県 中部地区医師会より(A2会員)	
4月1日	栃 内 第 二 病 院	山 崎 健	岩手医大医師会より (A2会員)	
4月1日	滝 沢 中 央 病 院	菊 地 大 輝	新規入会(B会員)	

【退 会】

(平成26年10月1日現在)

退会月日	所属施設名	氏	名	備考
3月31日	瓜田外科胃腸科医院	瓜田	明 義	廃業
3月31日	赤坂こどもクリニック	赤坂	徹	盛岡市医師会へ
3月31日	さわやかクリニック	田村	茂	盛岡市医師会へ
6月30日	滝 沢 中 央 病 院	加藤	貴 志	退職
7月13日	一方井診療所	熊 谷	小次郎	廃業

会員数の状況

10月1日現在の会員数 86名

編集記

岩手西北医師会に名称変更して、第1回目の医師会報の表紙は岩手山の上空からの貴重な写真です。杉江先生が今年、絶好の天気の中、とらえたものです。

県医師会ゴルフ大会は諸先生方のご協力のお陰で無事に、盛況のうちに終わることが出来ました。改めて御礼申し上げます。ゴルフ大会の詳細は次号でご報告します。

西島先生の先人への思いと、嶋先生の医師会報の歴史に関する記述は、過去を知らない我々には新鮮な刺激になりました。 嶋先生のご好意で、今号から会報の後に創刊号から順番に過去 の医師会報を載せています。岩手郡の医療の歴史が書いてあ り、興味深く読ませて頂きました。

会長の巻頭言にあります"ボトムアップ"になるように微力ながら頑張りたいと思います。

北上 明

岩手郡医報:No.105/2014年11月発行

発 行:一般社団法人 岩手西北医師会

発行責任者:一般社団法人 岩手西北医師会会長 高 橋 邦 尚

事 務 局: 〒020-0638 岩手県滝沢市土沢541番地

TEL 019-699-2001 FAX 019-699-2002

http://www.iwategun-med.or.jp

制 作:一般社団法人 岩手西北医師会広報部